

AI

×

データ

×

組織

×

プロセス

四つの掛け算が変える 建設業の未来

長谷工コーポレーション

原

問い AIを導入したのに、なぜ収益に結びつかないのか

—— これは当社だけの悩みではありません

1 海外調査が示す現実

9割以上

生成AI導入プロジェクトが、
測定可能な投資効果を示せていない

2 本当の原因

AIの性能不足ではなく
「置き場所」の違い

個人の作業の効率化に置く



収益を生む仕組みの中に置く

3 時間削減の実態

議事録
▲30分

文書作成
▲10分

再投資すれば **収益に**

再投資されなければ
P/Lには一円も現れない

時間削減 = 収益化の「原資」 であって、収益そのものではない

建設業で考える 鎖の強さは、一番弱い輪で決まる

1 ボトルネックの罠

図面作成が2倍速くなっても、
職人不足・承認停滞が残るなら
**工期・売上・利益は
変わらない**

2 90年代ITと同じ構造

生産性を上げたのは、プロセス
再設計×組織変革をセットで
行った企業だけ。「載せる」だけ
では組織の慣性に吸収される

3 発想の順番を逆にする

× 「AIに何ができるか」

↓ 逆算する

○ 「収益のどの変数を動かすか」

バリューチェーン全体を、一つのデータ基盤の上でつなぐ



一つのデータ基盤

二つの転換

部分最適 → 全体最適

定量管理 → 予測管理

AIは道具ではなく、**経営を変える「触媒」**である

AI × データ × 組織 × プロセス —— 四つの掛け算

$$\text{AI} \times \text{データ} \times \text{組織} \times \text{プロセス} = \text{収益}$$

足し算ではなく掛け算 —— **どれか一つでもゼロなら、答えは必ずゼロ**

高性能なAIを導入しても、
データが使えなければ

0

データが整っていても、
動かす組織がなければ

0

組織があっても、
プロセスが変わらなければ

0

多くの企業の現実：「AIだけ」に投資して満足 —— 巨額を投じても収益が増えない正体

AI 1

×

データ 0

×

組織 0

×

プロセス 0

=

0

四つの要素を一つずつ見ていく —— それぞれに **「問わなければならない問い」** がある

問いは、「何に使うか」

× 多くの企業をつまずき

手をつけやすい業務にAIを投入してしまう

議事録作成

文書整理

= 生産性は低いが、手をつけやすい業務

付加価値の低い業務を速くしても、
生み出される価値は小さいまま

○ 長谷工が目指す方向

収益性の高い領域 にAIを集中させる

勘と経験



データによる予兆管理

個別工程の効率化



事業全体の全体最適化

リソースは、**最も価値を生む場所** に集中投下

「便利な作業」ではなく「収益の源泉」へ —— これが **第一の発想転換**

問いは、「使えるデータか」

× AIは魔法ではない

AIの賢さは、与えるデータの質で決まる

ゴミ



AI



ゴミ

「ゴミを入れれば、ゴミが出てくる」—— 不変の鉄則

汚れた・散らばったデータからは、

信頼できる答えは出せない

○ 長谷工の取り組み

AIを動かす前に、AIが食べる **「土壌」を耕す**

AI

クリーンで構造化されたデータ基盤

Notion を活用して構築

地味に見えても、ここを飛ばした企業は
必ず後で立ち止まる

AIの賢さは、**データの質** で決まる —— まず土壌を耕してから、AIを動かす

問いは、「誰が動かすか」

× 「導入して終わり」の組織

AIは、動かし・見守り・改善し続けるもの

現場が
勝手に使う

or

情シスに
丸投げ

= 多くの企業はこのどちらかに陥っている

責任の所在が曖昧なままでは、

AI活用は続かない

○ 長谷工の体制

推進部署を明確に設計し、**ガバナンスを確立**

誰が 意思決定 するのか

誰が 品質を担保 するのか

誰が 責任を負う のか

この体制があってはじめて、

AIは組織の中で根を張る

現場任せでも、丸投げでもなく —— **責任ある体制** がAIを根づかせる

問いは、「業務が変わるか」

× 最も難しく、最も見落とされる

従来の業務フローにAIをただ「載せる」だけ

多段階の
承認

繰り返す
手戻り

= プロセスが変わらず、そのまま残る

AIの効果は、
組織の慣性に吸収されてしまう

○ 長谷工の設計

利用ルールと倫理観を整備する

① 線引きを明確にする

AIに任せる

人間が判断する

② あえてアナログを残す

「アナログ継続計画」を同時に設計

AIが止まっても事業を継続 ―― 過信もリスク

AIを「載せる」のではなく、業務プロセスそのものを変える



第2章 まとめ

四つすべてが揃ったとき、効果は掛け算で増幅する

× 一つでも欠ければ

$$\text{AI 1} \times \text{データ 1} \times \text{組織 0} \times \text{プロセス 1} = 0$$

○ 四つすべて揃えば

$$\text{AI 1} \times \text{データ 1} \times \text{組織 1} \times \text{プロセス 1} = \text{増幅}$$

従来の延長線上でAIを使う



AIは単なるコストで終わる

四つを同時に設計し直す



収益を生む「経営の力」になる

長谷工が取り組むのは、この「**四つの同時設計**」—— 次章では、現場での具体的な取り組みをご紹介します

「四つの同時設計」 が、AIをコストから経営の力に変える



なぜ、Excelではダメなのか

Excelは素晴らしい道具 —— しかし、AIに使わせるデータ基盤として見たとき、三つの限界がある

1 散らばる

同じような表が、担当者ごと・
案件ごとに無数のファイルで存在
。
どれが最新かさえない

2 揃わない

同じ「予算」という項目でも、
列の並びも、単位も、表記も、
人によってばらばら

3 つながらない

あるファイルの数字と、
別のファイルの数字を
関連づけることができない

○ 「人が読む」ためには
優れている

× 「AIが読む」ためには
設計されていない

そこで、私たちが選んだのが **Notion** —— クリーンで構造化されたデータ基盤へ

Notion AIがもたらす「生きたデータベース」

× ただ情報を貯めておく「倉庫」

情報が静止した、ただの資料



○ 動いて応答する「生きたデータベース」

構造化され、関連づけられ、AIが答える

長谷工の実践 —— 四つの例

例① 実行予算の処理

例②

例③

例④

案件ごとに
ばらばらの予算データ



共通の形式で
構造化し、蓄積



AIがいつでも
参照できる形に

Q「この案件と似た条件の過去予算は？」



AIが即座に答える

「貯める」から「応答する」へ —— データが、経営の問いに即答する



例② 業者見積の評価

× これまでの妥当性チェック
担当者の経験と勘に頼っていた



○ AIが過去データと照合して判定
チェックの一部を自動化しつつある

長谷工の実践 —— 四つの例

例① 実行予算の処理

例② 業者見積の評価

例③

例④

過去の膨大な
見積データ



Notionに
集約・構造化



新しい見積をAIが
照合し、判定

Q「この見積は、妥当な水準か？」



AIが他の現場の最新データと照合

経験と勘によるチェックを、**データによる判定**へ —— 妥当性チェックの自動化

予算データベースと添付ファイルの見積を比較し差異を検出して下さい。また、この見積もりが参考予算に対して適正か判断して下さい。その理由も説明して下さい。

3月25日

6ステップ

参考予算データベースとPDF見積書の比較分析結果をお伝えします。

1. 全体比較サマリー

PDFの見積書（1ページ目）に記載されている3つの予算コードについて比較します。

予算コード	名称	予算DB合計	見積書 予算欄	見積書 実施（契約）
	木工事 システム収納			
	木工事 他純造作材			
	その他 その他	0円（該当なし）		
合計				

2. 主要な差異

予算コード システム収納

- 予算DB: → 見積書の実施額:
- 差額: 予算比 約+1.9%
- 見積書の予算欄 予算DBの合計値と異なり、見積書側の予算が約 少なく設定されています。

予算コード （他純造作材）

- 参考予算DB: → 見積書の実施額:
- 差額: 予算比 約38%
- 見積書は 予算の約38%の金額であり、大幅に低い。ただしこれは、見積書が木工事の 分のみを対象としており、額縁・カーテンBOX・棚板等の他の造作材は別業者や別契約である可能性が高いです。

予算コード （その他）

- 参考予算DB: 0円 → 見積書の実施額: 円
- 参考予算DBにこのコードの金額計上はなく、見積書にのみ存在する項目です。

4. 適正性の判断

理由：

1. システム収納 参考予算とほぼ整合

- 実施額は 予算DB に対して+1.9%の微増にとどまり、妥当な範囲です。

2. 掛率による値引きが適切に行われている

- 見積金額に対して掛率 が適用されており、100～300戸規模のマンション向けシステム収納の標準的な掛率 の範囲内です。

3. 見積書の予算欄 と実施額 の差は

- 予算超過率は約10%です。これは注意が必要な水準ですが、見積書P1で「細目」に外注労務が記載されており、労務費 や法定福利費 を含んだ実施額であることを考慮すると、材料費単体では予算内に近い水準です。

4. WINC棚・SINC棚の掛率が異なる

- WINC棚: SINC棚: と項目により掛率に差があります。SINC棚の方が値引き幅が大きいのは、仕様が標準的なためと考えられます。

注意点：

- 見積書の「予算」欄 と 予算DB合計 に大きな乖離がありますが、これは参考予算DBが木工事全体（額縁、カーテンBOX、棚板等含む）を網羅しているのに対し、本見積書はシステム収納関連のみを対象としているためと考えられます。
- 予算コード「その他」 予算に計上がないため、追加費用として別途承認が必要と思われます。



例③ 配置図の自動分類

× これまでの仕分け作業
人手で、一枚一枚仕分けていた



○ Opus連携でカテゴリー分けを自動化
目指すのは、手作業ゼロ

長谷工の実践 —— 四つの例

例① 実行予算の処理

例② 業者見積の評価

例③ 配置図の自動分類

例④

人手で一枚一枚
仕分けていた配置図



Opusとの連携で
カテゴリー分け



仕分け作業を
自動化

目指すのは、手作業ゼロ



人は判断の仕事に集中

単純作業から人を解放し、**判断の必要な仕事**に集中できる組織へ

配置図のプロパティにあるPDFから取得できる情報を分析するためにカテゴリ分け、レベル分けをしてください。

考えた結果 >

I'll start by examining the current data to understand what's in the 配置図 property and what categorization already exists.

2ステップ >

I'll examine an actual 配置図 PDF to ground the categorization in what's really extractable. Let me load a page to get the file.

ページを読み込み済み  HFD 宇都宮市東宿郷(本体)

考えた結果 >

Let me view the actual PDF to understand what's extractable from these site plans.

2ステップ >

I examined a representative 配置図 PDF and it's information-rich — it contains far more than the current shape properties capture. From this one sheet alone I can read: 用途地域・容積率/建蔽率(第二種住居地域 200/60、商業地域 600/80)、防火地域区分、高度地区、日影規制、接道(主要地方道40m・市道8m 等)と現況幅員、境界線寸法、真北角度、建物構成(RC15F/11F/2F 店舗)、スパン割(X1〜X7=6スパン 36,600)、機械式駐車場(地上4段/地下2段)、各種フェンス、出入口種別、GL・高低差、離隔距離・隣地斜線/天空率、屋上緑化、受水槽等。

これらを「カテゴリ分け・レベル分け」する枠組みを作れますが、アウトプットの形だけ先に確認させてください。

カテゴリ分け・レベル分けの成果物はどの形がよいですか？
このDBに分類用プロパティを追加

「レベル分け」の主軸はどれにしますか？
施工難易度（工程への影響度）

 +  

考えた結果 >

回答ありがとうございます。施工難易度（工程への影響度）を主軸にした分類プロパティを追加します。まず正確なプロパティ定義のためスキーマ仕様を確認します。

2ステップ >

スキーマ仕様を確認しました。配置図PDFから読み取れる情報を「施工難易度（工程への影響度）」の観点でカテゴリ化し、各カテゴリをレベル評価できるプロパティを追加します。

配置図PDFから読み取れる情報を「施工難易度（工程への影響度）」の観点で6カテゴリ+総合レベルに整理し、このデータベースに分類用プロパティとして追加しました。

追加したプロパティ

プロパティ	種別	配置図からの主な判定材料
接道・搬入難易度	低/中/高	接道数・道路幅員・特殊条件（高架/交差点/狹隘/一方通行）
仮設・敷地余裕難易度	低/中/高	空地率・建物と境界の離隔距離
山留め・根切り難易度	低/中/高	敷地形状・GL高低差・離隔・地下階
躯体・形状難易度	低/中/高	外形タイプ・棟数・スパン割・階数
法規制約難易度	低/中/高	用途地域・容積/建蔽率・高度地区・日影・防火・斜線/天空率
外構・付帯難易度	低/中/高	機械式駐車場・屋上緑化・擁壁/フェンス・受水槽
施工難易度総合レベル(5段階)	Lv1〜Lv5	上記6カテゴリの総合
施工難易度評価メモ	テキスト	判定根拠の記録用

各選択肢には判定基準（低=制約小、高=制約大）を説明として埋め込んであるので、評価軸の目安としてそのまま使えます。

例④ 首都圏マンション施工情報 4年分のデータ分析

× 一件一件のままでは
ただの「記録」にすぎない



○ 構造化された瞬間に変わる
未来を予測するための「知見」へ

長谷工の実践 —— 四つの例

例① 実行予算の処理

例② 業者見積の評価

例③ 配置図の自動分類

例④ 4年分のデータ分析

過去4年分の
案件データ



共通の形式で
構造化・蓄積



AIが案件を超えた
「傾向」を読む

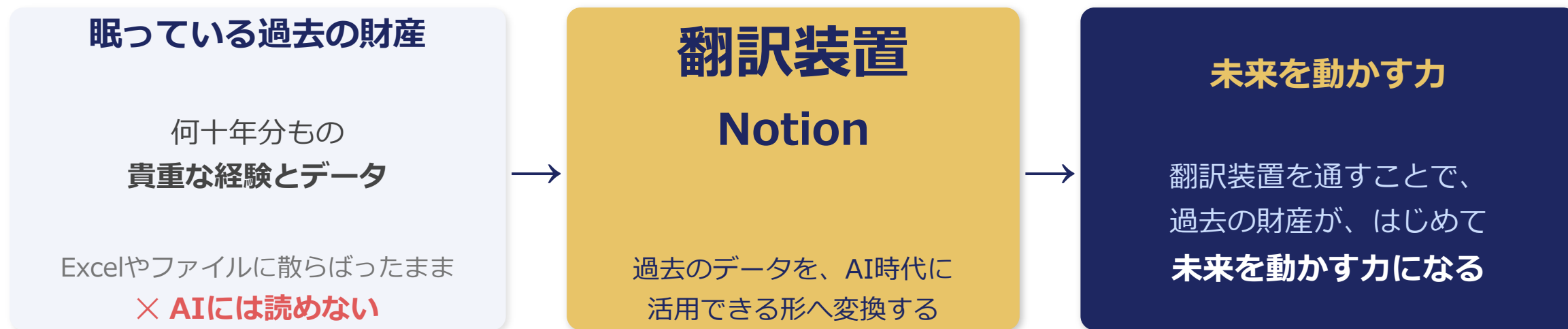
記録が、未来を予測する「知見」に変わる



「予兆管理」の土台に

構造化が「記録」を「知見」に変える —— 予兆管理の土台が、ここに生まれる

Notionの本質 —— 過去と未来をつなぐ「翻訳装置」



AIより先に、データを整える

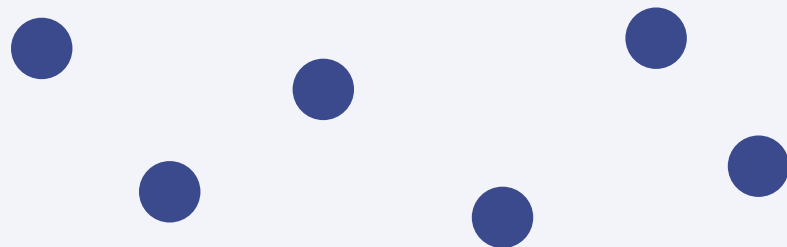
地味で、時間のかかる作業 —— しかし、ここを丁寧にやり切った企業だけが、AIの本当の果実を手にする

次章 —— こうして整えた基盤の上で、組織はどう動くべきか

点の活用を、面の変革へ

土壌は耕されつつある —— 次の問いは、「その上で、組織はどう動くのか」

× 点の活用 —— 多くの企業の現実

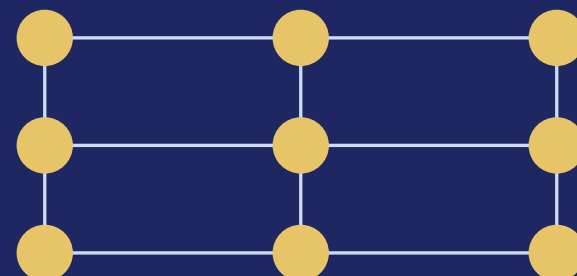


担当者が個人で使う／部署が独自に導入 —— しかし…

知見は隣に伝わらず、データは共有されない
点がいくつ増えても、全社は変わらない



○ 面の変革 —— 長谷工が目指す姿



個々の取り組みを、全社の構造として束ねる

知見もデータも、全社でつながる
全社のスループットが動き出す

点を、面にする —— これが 部分最適から全体最適への転換

「面」を描くために、何が足りないのか

全体最適の絵は、現場から自然に湧き上がってくるものではない —— 足りないものは、二つ

1 構造設計

誰かが全体を俯瞰し、「設計図」を描く

どこに **AIを配置** するのか

どの **データをつなぐ** のか

誰が、どう **責任を持つ** のか

2 ガバナンス

描いた設計を、全社に行き渡らせる「統制」

一枚の設計図

現場

部署

経営

全社が同じ設計のもとで動く

× この二つが欠けたまま点を増やしても、それは永遠に「点」のまま

「面」は、自然には生まれない —— **設計図とガバナンス** が描き出す

長谷工の戦略 —— 段階的に拡張していく

× いきなり、大きく賭ける



○ 低リスクで始め、確実に階段を登る

より自律的に動くAIへ —— 段階を上げていく

日常ツールの中で、低リスクに始める

STEP 1
Microsoft Copilot

手応えを確かめながら、段階を上げる

STEP 2
**触れ、慣れ、
効果を実感する**

STEP 3
エージェント活用

自律的に動くAIが
業務を担う段階へ

低リスクで始め、確実に階段を登る —— これが **現実的な拡張の道筋**



エージェント時代のセキュリティ —— 三つの原則

エージェントへ進むとき、避けて通れないのがセキュリティ —— 特に外部AIエージェントでは、設計が極めて重要

1 内と外の区別

社内の機密情報と、
外部に出してよい情報を
明確に分ける

2 アクセス制御

誰が、どのデータに、
どこまで触れられるのかを
厳格に管理する

3 二要素認証

重要な入り口には、
二重の鍵をかける

攻め —— AIを大胆に使う

×

守り —— 堅牢なセキュリティ

AIを大胆に使うからこそ、守りは堅牢に —— **攻めと守りは、常にセット**



第4章 最も大切な原則

Human-in-the-Loop —— 人間を、輪の中に

どれだけAIが優秀になっても

AIが分析し、提案する

最終判断は、人間

任せきりにしない構造を、意図的に維持し続ける

なぜ、人間を輪の中に残すのか

人々が暮らす住まい

安全

何十年も残る社会資産

—— この判断の重みを、AIに丸投げはできない

AIは、判断を「速く、正確に」する支援者。

判断の主体は、人間 —— 責任ある会社の「背骨」

第4章の設計思想

点を、面へ

部分を、全体へ

攻めと守りを、両輪で

最後の判断は、人間が握る

次章 —— 全体最適がもたらす、もう一つの大きな転換 「定量管理から予測管理へ」

この設計思想が、AIを「便利な道具」で終わらせず、**全社を変える力** へ育てる



数字を見る経営から、兆しを掴む経営へ

私たちが重んじてきた「定量管理」

—— 経営の基本であり、否定されるものではない。しかし…

数字で実績を測る

予算と実績を比べる

差異を分析する

根本的な限界

数字を見たときには、問題はもう起きてしまっている

工期が遅れた

原価が膨らんだ

数字で把握できたとき、現実はずでに発生した後

=

バックミラーを見ながら、
車を運転しているようなもの
過去の結果を見て、後から手を打っている

これが、定量管理の **宿命的な限界** —— 必要なのは、「前」を見る仕組み



予兆管理 —— 問題が「数字」になる前に、「兆し」を掴む

データの中に隠れた、無数のサイン —— 人間が一件一件見ていては気づけない兆しを、AIが先読みする

「この組み合わせのとき、遅延が起きやすい」

「この見積パターンは、後でコストが膨らみやすい」

予兆管理の本質

問題が起きてから対処するのではなく、起きる前に手を打つ

バックミラーを見る経営

過去の結果を、後から追いかける



フロントガラスの先を見る経営

兆しを掴み、先に手を打つ

これを可能にするのが、整えられたデータ（第3章）× 全体最適の構造（第4章）

定量管理から、予兆管理へ —— 数字になる前の「兆し」を掴む経営



AIを、恐れなくてください

新しい技術には、不安がつきもの —— その気持ちは、よく分かります。しかし…

「仕事が奪われるのではないか」

「判断を間違えるのではないか」

× 恐る恐る触る

過度に恐れて、
中途半端に使う

実は、一番もったいない

× 無責任に丸投げする

責任ごと、
AIに渡してしまう

判断の主体を手放す

○ 範囲を決め、使いきる

人間が責任を持って
「決定できる範囲」を見極め、
その範囲の中では
AIを徹底して使いきる

任せると決めた領域では、迷わず使いきる —— この **覚悟** が、効果を分ける



一夜にして成らず —— 1~2年の移行期間 を見込む

この移行期間に、すべきことは二つ

1 ルールと倫理観の確立

AIをどう使うか —— 規範を組織に根づかせる

何を、AIに任せるのか

何は、人間が守るのか

2 新旧プロセスの並走

いきなり全てを切り替えず、二人三脚で走らせる

新しい仕組み（予兆管理）

従来のアナログなプロセス

新しい仕組みが完全に立ち上がるまで並走させる —— 安全に、確実に移行するための現実的な知恵

これは技術の話であると同時に、私たち自身の「構え」の話

恐れず、しかし 慎重に

大胆に、しかし 責任を持って

数字を見る経営から、兆しを掴む経営へ —— 長谷工は、その両立を目指す

クロージング —— メッセージ

AIは、道具ではない

便利なツールを一つ導入する話ではなく、**経営の構造そのものを変えるもの**

四つの掛け算



データを整える



点を、面へ



兆しを掴む経営へ

これらは、バラバラの施策ではない —— 一つの大きな構造変革の、つながった姿

部分最適の積み上げでは、全体は変わらない

会社全体を動かすのは、全体を貫く「一枚の絵」

では、その絵を描くべき時は、いつでしょうか ——

来年、でしょうか

技術が成熟してから、でしょうか



—— その絵を描くべき時は、いつか

違います。

今です。

移行には、時間がかかる —— だからこそ、最初の一步は早ければ早いほどよい

今こそ、全体最適の絵を描く時

その絵の中心に立つのは、AIではなく「人間」

何を描き、どこへ向かうのか —— 決めるのは、皆さん一人ひとり

長谷工は、その未来を描いてまいります。

ご清聴、誠にありがとうございました。



長谷工コーポレーションから学ぶ AI x データ x 運用(ガバナンス) を回すための Notion活用

Notion Labs Japan合同会社

2026年7月



Notionとは？

すべての企業が自らの業務プロセスをAIで構成できる世界へ。IKEAが「良い家具を誰もの手に」、UNIQLOが「良い服をすべての人に」、Notionのミッションはすべての人に「**人生のシゴトに、美しい道具を**」。



Notionについて

創業者CEO
アイバン ザオ

創業
2013年

2015年
京都で製品を
一から作り直し

ユーザー数
1億人
2024年7月時点

本社所在地
サンフランシスコ

企業評価額
1.4兆円

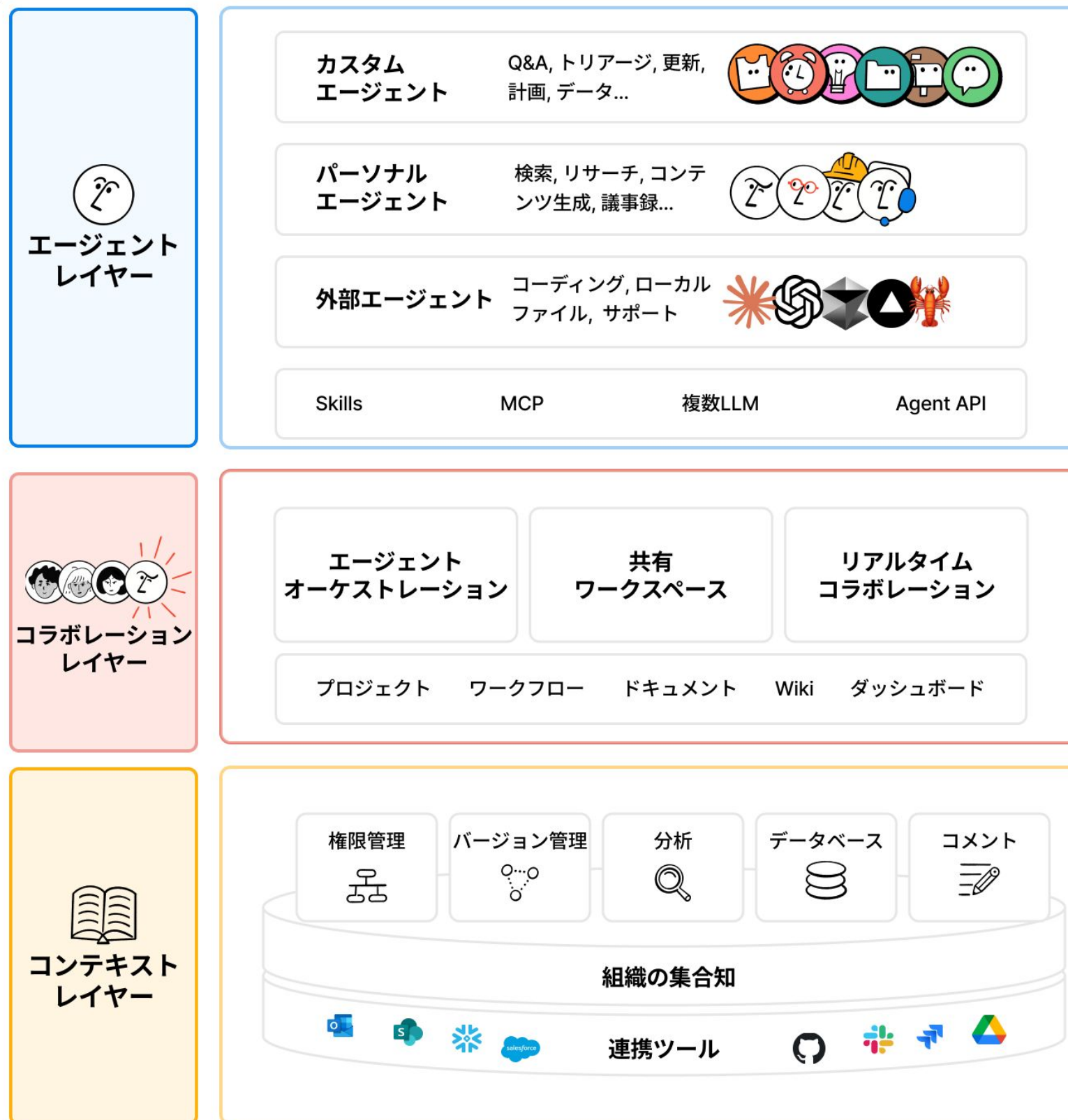


国内で急成長中のアプリ

アメリカ合衆国	NinjaOne	▲ 240%
日本	Notion	▲ 43%
カナダ	1Password	▲ 25%
英国	HubSpot	▲ 24%
イスラエル	Slack	▲ 23%
ドイツ	GitHub	▲ 17%
オーストラリア	GitHub	▲ 14%
韓国	AWS	▲ 11%
フランス	AWS	▲ 8%



Notion = 組織レベルで人とAIの協奏を支える Agent OS



特定LLMに依存しない

- 特定LLMに縛られず最適なモデルを選び利用できる
- ベンダーロックインを避けた基盤
- 今後様々な外部AIエージェントと接続

人とAIが協業する場

- 人とAIが同じ場所で仕事し、成果物が貯まる
- 人とAIに権限設定とログ管理が可能
- AIを一部の人だけではなく組織全体で共有する

知を集約する

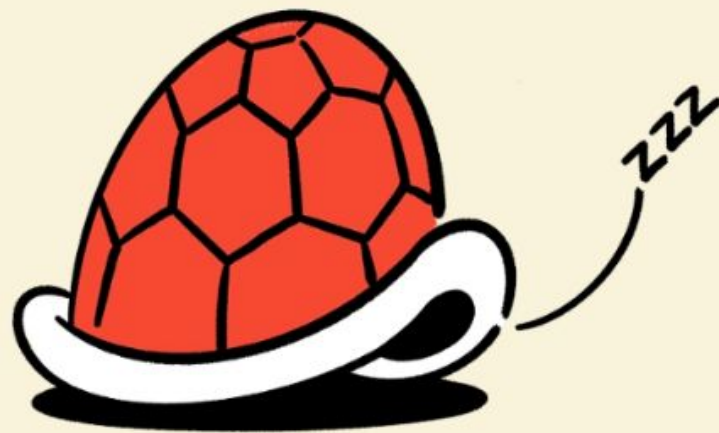
- 文書・規程・各種ツールに眠る知を一箇所に集約
- 人もAIも膨大な知を即座に検索・利用可能に
- 今後あらゆるシステムと接続可能に

建設業の組織が抱える課題

「整えられて上がってくる報告」と「勘と経験」に依存せざるを得ず、変化の兆しを読み取る術も乏しい。結果として、判断は後手に回り、限られた情報の中で決めている。

探せない

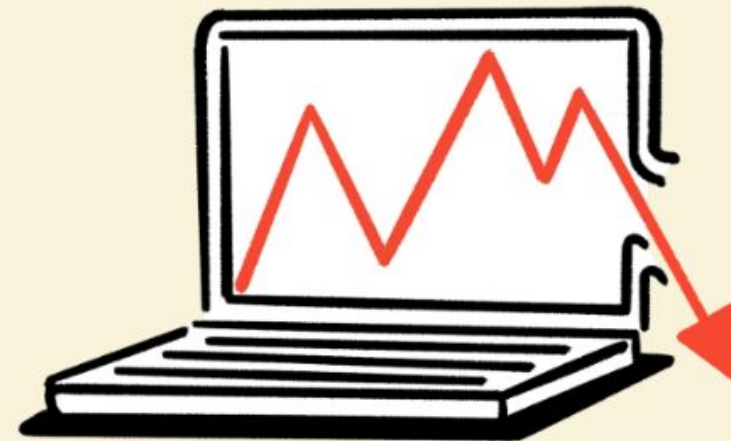
データが散在し、最新版に辿り着けない



予算・見積・図面が案件・現場ごとにExcel/共有フォルダへ分散。最新版が分からず、転記と探し回りが常態化。

評価できない

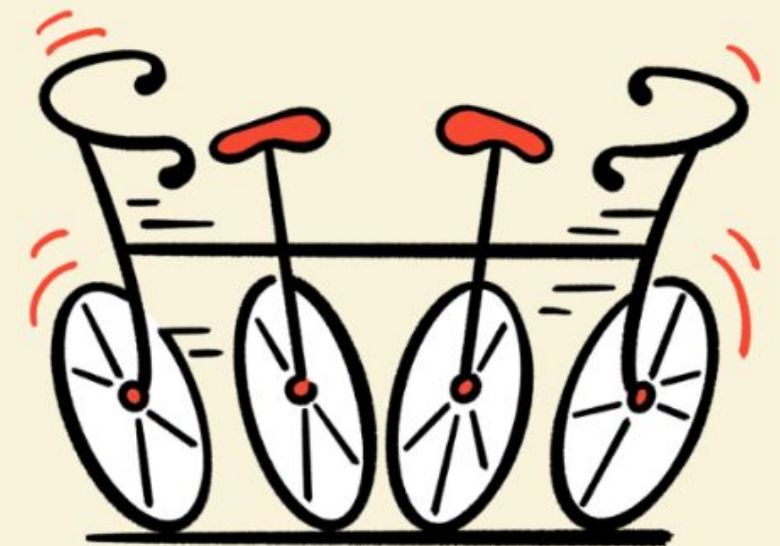
判断のものがなく、根拠を示せない



例えば業者見積。妥当かを照合できる過去データがすぐ出せず判断は経験頼み。担当が代わると基準がブレ、適正値の説明に苦労。

先を読めない

知見が個人に閉じ、案件を超えて活かさない



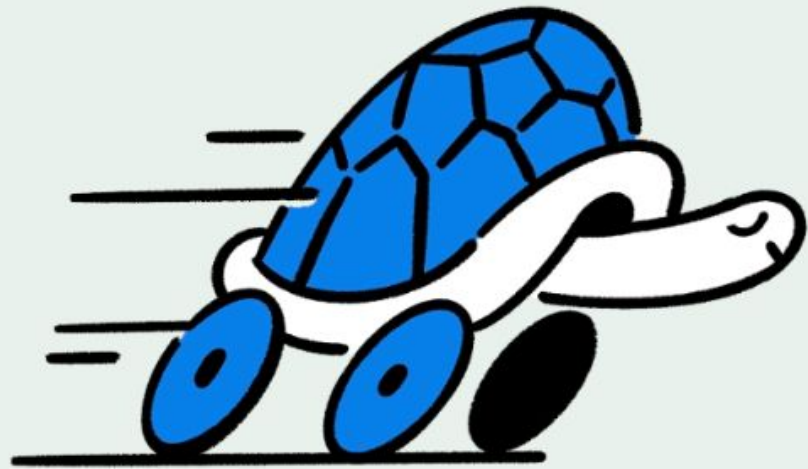
工程の見立てや形状把握が担当者の頭の中に留まる。案件横断で蓄積・予測に使えず、変化の兆しを先読みできない。

Notion活用による業務の変化

報告を待たず、経営も現場も整ったデータと最新状況をその場で確認。打つべき手とその根拠まで一気通貫で議論でき、バックミラー運転から、先手の予兆管理へと変わる。

1 クリーンなデータ基盤

探すを最小にたどり着く



バリューチェーン全体のデータを一つの基盤で構造化。最新版に即アクセスでき、転記や探し回りが消える。

2 過去情報からAIが一次評価

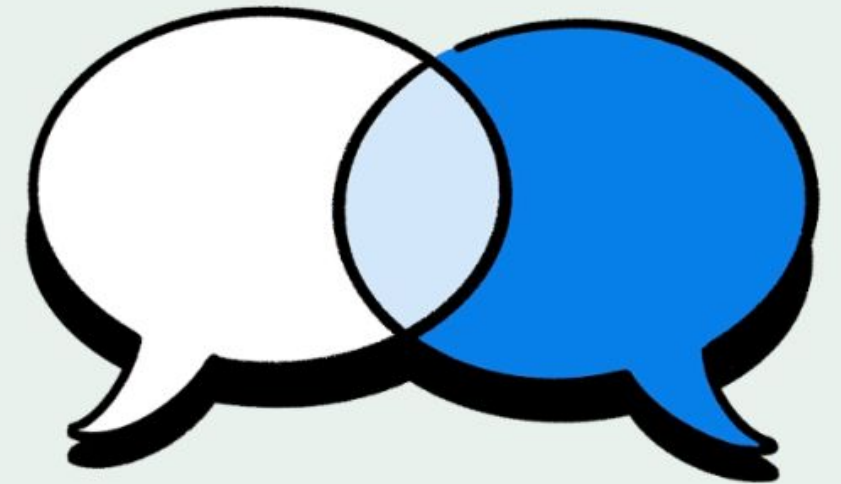
根拠が持て、精査に入れる



AIが過去の見積情報を照合し、一次評価を即実行。経験と勘に頼らない判断の土台となる。

3 ベテランの答えを再現できる形に

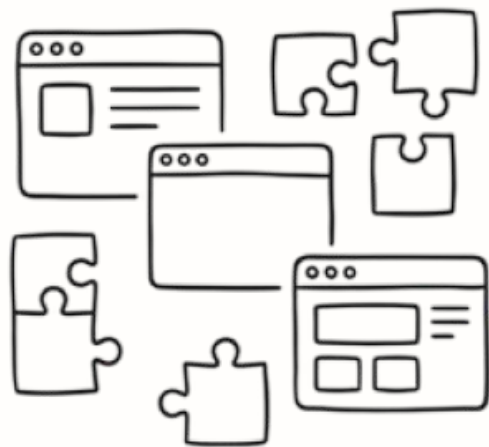
知見が蓄積、予測に活かされる



工程算出や形状分析の結果が知見として構造化され、人もAIも即時活用。類似案件の判断や予測の精度を高める資産となる。

クリーンなデータ基盤

As-Is



過去の情報を探すのに手間。何度も同じことを聞かれ、ベテランは伝えるのも大変。“もっと簡単に見るといいのに…”

建設業のためのNotion

2日前 編集 共有

建設業のためのNotion

掲示板

最新 フィード

建設業ナレッジデータベースを整備、現場知見の共有と判...

2026年6月22日

既読

プロジェクト管理業務を刷新、進捗の可視化と意思決定の...

2026年6月16日

既読

Notion本社事務所プロジェクト受注のお知らせ

2026年6月5日

既読

建設機材貸出申請をオンライン化、必要な機材を素早く確保...

2026年6月2日

既読

今期重点方針 | 現場力×技術で跳躍

2026年5月26日

既読

+ 新規ページ

建設業の長期ビジョン

スマートなけんせつのチカラで未来を切り拓く - 建設業の長期ビジョン2.0

第1部 2050年に向けて建設業はさらに進化する

人口減少・高齢化の進展

デジタル・AI技術の本格展開

働く場所や時間の多様化

災害激甚化

インフラのリストラグチャリング

カーボンニュートラルな社会の実現

国際競争力の向上と海外市場への進出

普遍的使命

2050年の建設業の役割

2050年の建設業の姿

未来予想図

第2部 2035年に向けて建設業は突き抜ける

建設投資額 84.3兆円

技能労働者不足見込み 129万人

生産性向上と入職者の増加により克服

けんせつのチカラの強化

選ばれる産業への変革

すべてのサプライチェーンにおけるWin-Win関係の構築

第3部 常に進捗すべきこと

コンプライアンスの徹底

安全対策の徹底

建設業の魅力の発信

建設業のためのNotion

掲示板

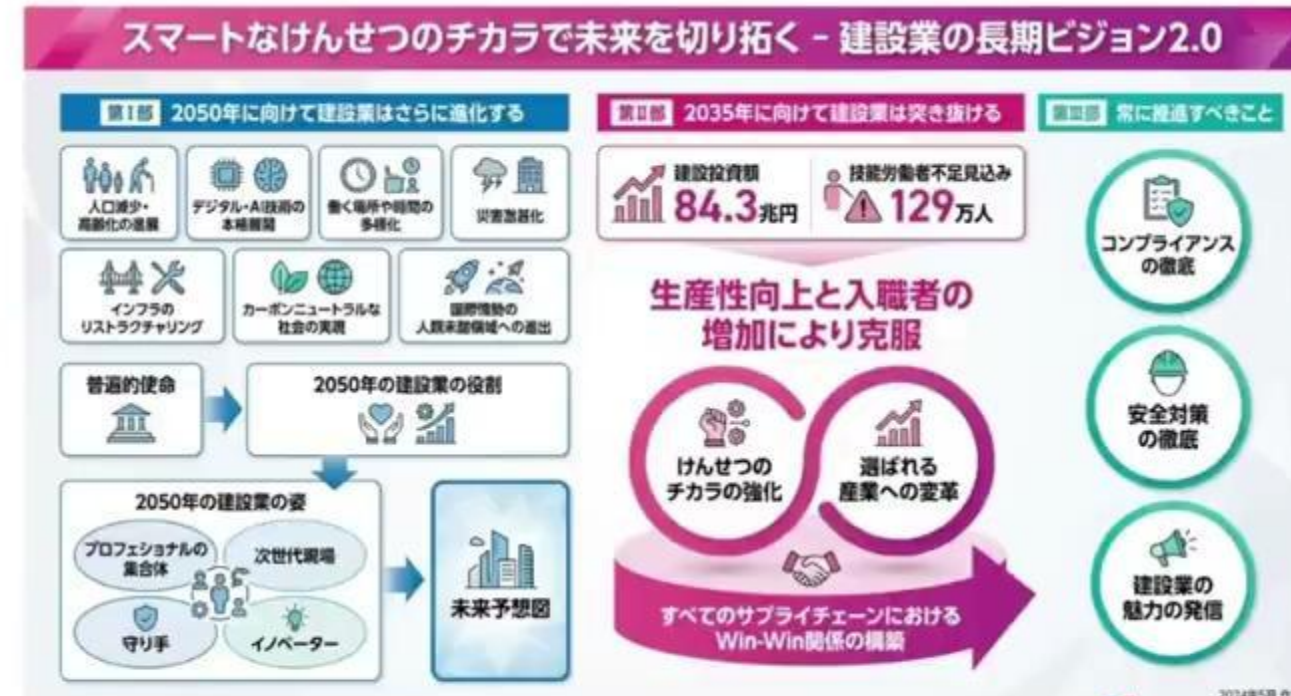
最新 フィード

新規

- 建設業ナレッジデータベースを整備、現場知見の共有と判... 2026年6月22日 既読
- プロジェクト管理業務を刷新、進捗の可視化と意思決定の... 2026年6月16日 既読
- Notion本社事務所プロジェクト受注のお知らせ 2026年6月5日 既読
- 建設機材貸出申請をオンライン化、必要な機材を素早く確保... 2026年6月2日 既読
- 今期重点方針 | 現場力x技術で跳躍 2026年5月26日 既読

+ 新規ページ

建設業の長期ビジョン





今日は何をお手伝いしましょうか？

AIで何でもできます...



自動 音声入力

アプリからより適切な回答を得る



📄 スライドを作成する

📊 スプレッドシート

🔍 リサーチ

📈 可視化



過去情報からAIが一次評価

As-Is



見積の妥当性精査は、経験と勘頼み。

担当交代で基準ブレを防止するために過去データと照合したいのに、ExcelやPDFが散らばっていて根拠をすぐ出せない。

“ハンコを押す前に外値ないか見たい…”

Notionビルディング建設

議事録

テーブル

会議名	ステータス	開催日	サブ
建設プロジェクト キックオフ会議 (Notionビルディング建設)	完了	2026年3月18日	Notionビルディング建設
プロジェクト定例	完了	2026年6月16日	Notionビルディング建設

新規ページ

予算明細

プロジェクト別明細

Notionビルディング建設

明細項目	予算額	発注額
電気・空調・給排水衛生	¥7,900,000,000	¥6,200,000,000
内外装仕上・建具	¥7,800,000,000	¥4,500,000,000
RC躯体・鉄骨建方	¥10,500,000,000	¥10,200,000,000
掘削・山留め・残土処分	¥1,200,000,000	¥1,200,000,000
基礎躯体・地業工事	¥2,800,000,000	¥2,700,000,000
仮設足場・養生・仮設電気	¥1,800,000,000	¥1,700,000,000

新規ページ

新しいグループ

見積もり評価と予算比較

予算データベースとの差異検出 & 仕上工事の発注余力

外装工事 (ALC・タイル) は実行予算の「内外装仕上・建具」(仕上工事) に属します。

項目	金額
仕上工事 予算額	¥7,800,000,000
既発注額 (美装仕上工業)	¥4,500,000,000
実績原価	¥600,000,000
現時点の発注余力	¥3,300,000,000

本見積を発注した場合 (税抜 ¥1,407,000,000 ベースで試算)

- 累計発注額: 4,500,000,000 + 1,407,000,000 = ¥5,907,000,000
- 発注額 ÷ 予算額 = 75.7% (ノウハウの目安では 70~90% = 健全寄り)
- 残発注余力: 約 ¥1,893,000,000

仕上工事の発注余力は十分にあります。現状の発注率57.7%は予算78億に対しまだ低め (ノウハウでも「拾い漏れ/発注未完か」を確認すべき水準) でしたが、今回の外装を発注すると約76%まで進み、健全な水準に近づきます。

2点だけ要確認

- 消費税が10%に是正されると税込 ¥1,547,700,000 となり、余力をさらに約4,200万円多く消費します (それでも余力内)。
- 既発注の「美装仕上工業 ¥4.5億」に外装スコープが含まれていないか (重複発注の有無)。別業者 (アーキファースト) への新規発注なので、スコープの切り分け確認を推奨します。

この評価結果を次にどう活用しますか?

評価レポートをページ作成

☒ 是正・確認事項をタスク化

☐ レポートとタスク両方

☐ 今はこのままでOK

☐ または、ご要望を入力してください...

Opus 4.8 送信

Notionビルディング建設

Alxデータx運用 (ガバ... / ... / 建設プロジェクト / Notionビルディング建設)

翻訳言語: 英語 × 共有

Notionビルディング建設

詳細を表示する

ステータス

責任者

期間

進行中

Yuko Takahashi

2026年6月8日 → 2028年9...

プロジェクト要約

Notionビルディング建設プロジェクトは、S造地上30階・延床45,000㎡規模の新築案件。総実行予算は約320億円として見直し済み。現在は鉄骨建方～耐火被覆のフェーズで、出来高は計画比-2%の軽微な遅延。是正完了率は92%（目標95%）で、開口養生の基準運用切替により改善見込み。今後3週は外装下地モック承認と幹線ラック最終ルート確定が山場。安全KPI（LTIFR 0.00）は維持中。

コメント

コメントを追加...

新規議事録作成

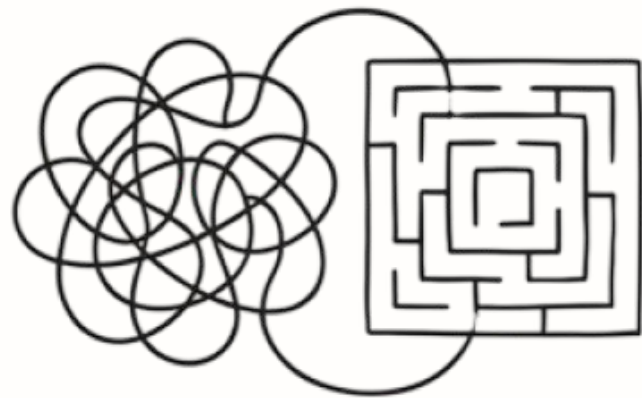
新規レポート作成

新規タスク作成

プロジェクト概要

蓄積された施工工程データや形状分析を予測に活かす

As-Is



工程の見立ては、ベテランの経験と勘頼み。新しい案件のたびに似た条件の過去案件を探し直し、図面の形状や敷地条件の確認にも時間がかかる。

“似た案件の工程条件を参照できれば…”

Notionレジデンス建設 / 実施工程データベース ...

AIxデータx運用 (ガバ... / ... / 建設プロジェクト推進部 / 実施工程データベース

8分前 編集 28 共有

カバー画像を追加 認証を追加 説明を追加

実施工程データベース

テーブルビュー 工程算出条件入力フォーム

# NO	Aa 名前	配置図	# 総戸数	# 階数	# 棟数	# スパン数
1	浅草レイクサイドテラス	asakusa_lakesid...	425	7	5	61
2	武蔵スカイツインレジデンス	musashi_sky_twi...	300	14	2	21
3	阿佐ヶ谷レジデンス	asagaya_residen...	65	14	1	5
4	川口公園サイドコート	kawaguchi_park...	75	8	3	9
5	丸セントラルガーデンズ	maru_central_ga...	168	10	3	17
6	インフィニレジデンス	infini_residence_...	150	15	2	10
7	プラチナステージタワー	platina_stage_to...	168	21	1	8
8	リベルタクレストコート	liberta_crest_co...	96	8	4	12
9	エテルノガーデンレジデンス	eterno_garden_s...	156	13	2	12
10	ボヌールヒルズ	bonheur_hills_sit...	90	6	5	15
11	メゾンエクラタワー	maison_eclat to...	216	24	1	9



カバー画像を追加 認証を追加 説明を追加

実施工程データベース

テーブルビュー 工程算出条件入力フォーム

新規

# NO	Aa 名前	配置図	# 総戸数	# 階数	# 棟数	# スパン数
1	浅草レイクサイドテラス	asakusa_lakesid...	425	7	5	61
2	武蔵スカイツインレジデンス	musashi_sky_twi...	300	14	2	21
3	阿佐ヶ谷レジデンス	asagaya_residen...	64	14	1	5
4	川口公園サイドコート	kawaguchi_park...	5	8	3	9
5	丸セントラルガーデンズ	maru_central_ga...	168	10	3	17
6	インフィニレジデンス	infini_residence_...	150	15	2	10
7	プラチナステージタワー	platina_stage_to...	168	21	1	8
8	リベルタクレストコート	liberta_crest_co...	96	8	4	12
9	エテルノガーデンレジデンス	eterno_garden_s...	156	13	2	12
10	ポヌールヒルズ	bonheur_hills_sit...	90	6	5	15
11	メゾンエクラタワー	maison eclat to...	216	24	1	15

AIエージェントによる予兆管理と自動化



施工部門

- 報告とリスク検知の自動化
 - 最新状況をAIがサマリ
 - 人は打ち手の議論に集中

ファシリティマネジメント

- 設備の予兆検知と交換最適化
 - 予兆～分析を自動化
 - 計画エージェントが後続を担う



建設業のバリューチェーン

調査・研究 から 修繕・リフォーム まで、左 → 右に一連で流れるプロセス

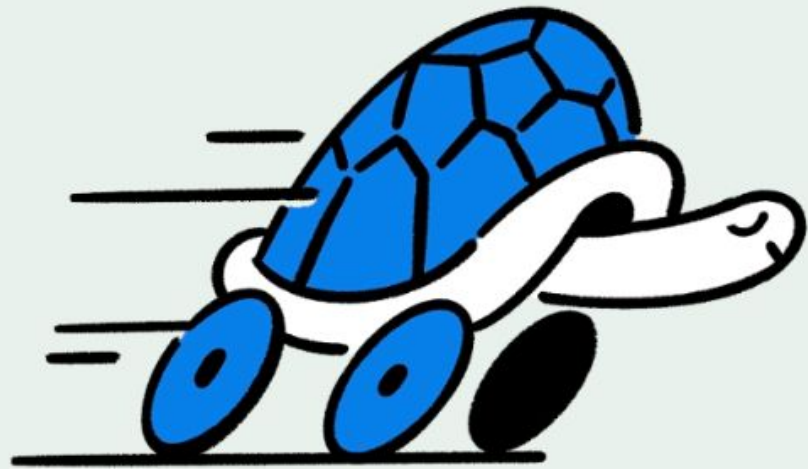


Notion活用による業務の変化

報告を待たず、経営も現場も整ったデータと最新状況をその場で確認。打つべき手とその根拠まで一気通貫で議論でき、バックミラー運転から、先手の予兆管理へと変わる。

1 クリーンなデータ基盤

探すを最小にたどり着く



バリューチェーン全体のデータを一つの基盤で構造化。最新版に即アクセスでき、転記や探し回りが消える。

2 過去情報からAIが一次評価

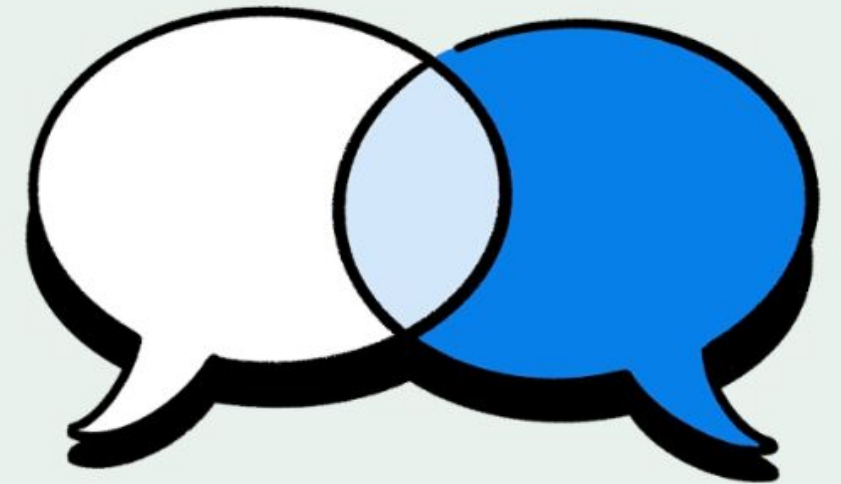
根拠が持て、精査に入れる



AIが過去の見積情報を照合し、一次評価を即実行。経験と勘に頼らない判断の土台となる。

3 ベテランの答えを再現できる形に

知見が蓄積、予測に活かされる



工程算出や形状分析の結果が知見として構造化され、人もAIも即時活用。類似案件の判断や予測の精度を高める資産となる。

アンケートとフォローアップセミナーについて

アンケート回答のお願い

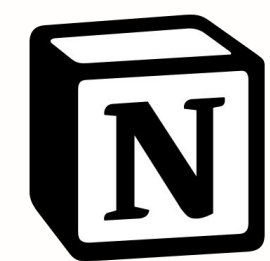


日刊建設工業新聞社様よりメールにて
本日16時に配信予定です。
お答えいただいた皆様に、本日の資料を送付予定です。
ぜひ、アンケートの回答をお待ちしております。

フォローアップセミナーの登録



8月18日（火）15時より建設・設計業界向けの
ウェビナーを開催予定です！
ライブでのQ&Aも予定しております。
ぜひ上記のQRコードよりご登録ください！



Notion